

豊栄病院患者総合支援センター いするぎ通信 平成31年1月

謹賀新年。今年も、いするぎ通信を届けます。



新年あけましておめでとうございます。日本の人口は150年前の明治維新の頃は3330万人と言われていました。2008年に人口はピークを迎え1億2808万人となりましたが、その後は人口が減り、150年後には再び明治維新の頃の人口に戻りかねない情勢です。わずか150年で人口が4倍にそして4分の1になるため、その渦中にある現在、人口構成のアンバランスが生じています。今後さらに少子高齢化・多死社会となり、必要とされる医療・福祉にも変化が起きます。国はこうした事態に対応するために医療改革を進めています。地域医療構想と地域包括ケアシステムで医療や介護の量的・質的の誘導を行うようにしていきます。こうした流れを見据えながら、この地域の医療・福祉、そして安心できる生活を守るために、豊栄病院は開業医の皆様方、施設の皆様方と共に歩んでいきたいと思っております。どうぞ今年もよろしく願いいたします(病院長宮島透)。

臨床検討会のお知らせ

日時:平成31年1月8日(火)午後6時
場所:豊栄病院 健診棟2階 多目的ホール
講演:糖尿病・CKDの療養指導を科学する
新潟大学大学院医歯学総合研究科 病態栄養学寄附講座 特任助教 蒲澤秀門 先生
共催:豊栄病院、MSD 株式会社

●1月の臨床検討会は蒲澤秀門(かばさわひでゆき)先生にお願いしました。看護や介護の方を対象としてくださいとお願いしました(柄澤)。

●多職種チームでの看取りの検討会

日時:平成31年1月8日(火)午後5時15分
場所:豊栄病院 健診棟2階 多目的ホール
今回は癌末期の患者さんの検討を再現します。是非参加を御検討ください。問い合わせや参加は患者総合支援センター 天木まで(柄澤)。

●MSW 日誌

時々、退院された患者さんやご家族、亡くなられた方の親族からお手紙をいただくことがあります。それらの手紙は何十年たっても、何度読み返してもこの仕事の意義ややりがいなどを私にあらためて教えてくれます。50代の女性、リウマチの疾患にて入院されていました。ご主人と息子さんとの世帯。ご自分でなんとか動かれていましたが、入院され回復が思うようにならず、退院の相談を受けました。ご主人は自宅は難しい意向、本人さんは「自分は何もできない、迷惑ばかりかけているので主人の意向に沿います」と話されリハビリにも消極的でした。本人さんと何度も話をしている内に「本当は家に帰りたい。リハビリをがんばりたい。」と自分の思いを話してくれるようになりました。そのご本人から退院後手紙をいただきました。「私もう少しだけ頑張ってみようという気持ちになったのはあなたのおかげです。」ととても嬉しいお言葉をいただきました。リウマチで手の変形がありやっとの思いで書いてくれたお手紙でした。これからもいただいた手紙たちを糧に患者さんや家族により添っていき MSWでありたいと思っております(岩淵)。

●糖尿病教室

日時:平成31年1月18日(金)午後1時半
場所:豊栄病院 健診棟2階 多目的ホール
初心者対象の糖尿病教室を隔月で開催しています。病気と治療を一通り学びます。指導が必要な患者様をご紹介下さい。スタッフの参加も歓迎します。指導のヒントにどうぞ。お問い合わせは患者総合支援センター 天木へ(菊地博)。



編集:仙台市の人口が山形県の人口を超えたそうです。市町村の人口格差は広がっていく。北区の人口と医療需要はどうなんだろう? センター長 柄澤良